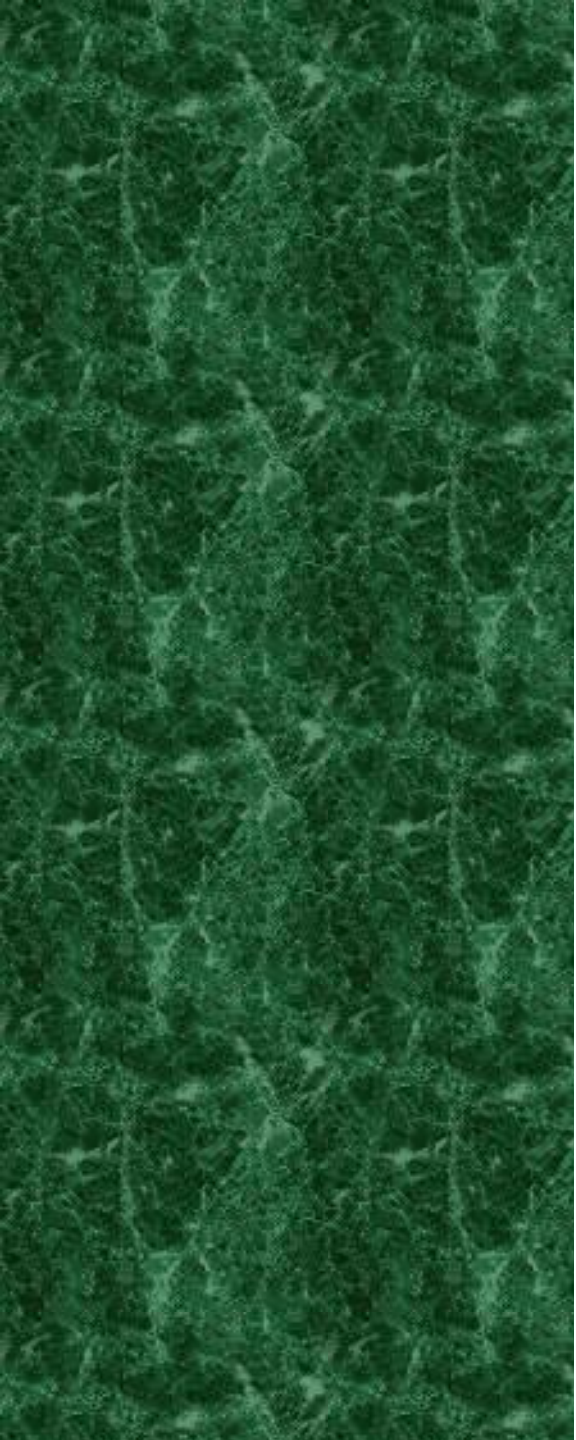




福音書の誕生

～福音となったイエス～

2026・10・11

宣教の拡大(信徒の増加)に伴い

- イエスのことを知らない信徒が増えてくる
 - ユダヤ以外の地域の信徒たち
 - 異邦人信徒たち
- イエスの事を知りたいリクエストが増える
 - イエスの言葉(教え・たとえ話・会話・祈り…)
 - イエスの行動(奇跡・足取り・十字架・復活)
- パウロにはできなかった！
 - イエスと共に行動した弟子たちの記憶に頼る
 - 様々な場面で語られたが「文書」にはなっていない
 - 誰がどのようにして書いた(編纂した)のか？

「福音書」の誕生

• 口伝伝承期

- 主に使徒たちの記憶に基づいて話された
- 最初は記録されることなく、口伝えに広がった

• 記録期（資料期）

- 弟子たちが語った話が記録されるようになった（保存と伝承のため）
- 一つ一つの話しが「ペリコーペ」となってまとまる

• 福音書の編纂期

- それぞれの著者が自分の読者や聴衆に向けて「福音書」を編纂する<単なる伝記ではない！

「ペリコーペ(伝承断片)」の証拠

•たとえ話

- 「天の国は次のようにたとえられる。」で始まる
- 「聞く耳のある者は聞きなさい」で終わる

•癒しの記事

- 病人との出会い＞(信仰確認)＞一瞬で癒される
＞信仰によって救われた

•対決の記事

- ファリサイ派が意地悪な質問をする
- イエスは予想外の答えでやっつける
- ファリサイ派はイエスを殺そうとする

ルカの場合

わたしたちの間で実現した事柄について、最初から目撃して御言葉のために働いた人々がわたしたちに伝えたとおりに、物語を書き連ねようと、多くの人々が既に手を着けています。

そこで、敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていただきたいのであります。

＜ルカ福音書1:1～4＞

「ルカ福音書」の誕生

- 弟子たちによる口伝

- 「**わたしたちの間で実現した事柄**について、最初から目撃して御言葉のために働いた人々（使徒たち）がわたしたちに伝えた（口伝）とおり」

- 福音書の編纂が始まっている

- 「物語を書き連ねようと、多くの人々が既に手を着けています」

- 自分も調べて書き記し、献上します

- 「そこで、敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献上するのがよいと思いました。

「共観福音書」の誕生

- マタイ・マルコ・ルカは＜**並行記事**＞が多いことから「共観福音書」と呼ばれる
 - イエスについての同じ話が掲載されている
- 歴史的（時間的）順序はマルコに従う
 - マタイとルカはマルコに記されている記事を記するときにはマルコの順番を守る（**マルコはすでにあった**）
- マタイとルカに共通する記事がある
 - 山上の垂訓（マタイ）や終末に関連するたとえ話など、**マルコにはないがマタイとルカが共に記している記事が多い（共通の資料？）**

マルコ福音書

- 著者: マルコ

- 「一人の若者が、素肌に亜麻布をまとい、イエスについて来ていた。人々が捕らえようとする、と、亜麻布を捨てて裸で逃げてしまった。」14:51-52

- 対象(読者)

- 異邦人(ローマ在住の信徒たち?)

- 内容の特徴

- イエスの行動を中心に語っている
- たとえ話や教え(説教)が少ない
- イエスの最後の一週間が1/3を占めている

マタイ福音書

- 著者：12使徒の一人マタイ

- 「イエスはそこをたち、通りがかりに、マタイという人が収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。」9:9

- 対象（読者）

- ユダヤ人の信徒たち

- 内容の特徴

- イエスが旧約聖書の預言の成就であることを強調

- 冒頭の系図

- 「主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった」

- イエスを「**新たなモーセ**」として描く

ルカ福音書

- 著者：医者ルカ（パウロの同行者）
 - ・ルカはイエスを直接知らない
- 対象（読者）
 - ・異邦人の高官（テオフィロ）＞未信者を含む異邦人の知識層を意識している
- 内容の特徴
 - ・イエスの人間性、社会的弱者への配慮、富の問題なども描いている
 - ・ルカにしかないたとえ話が多い（良きサマリア人・放蕩息子・ラザロと金持ちなど）

ヨハネ福音書の誕生

- 「共観福音書」が流布した後
 - 重複カ所が少ない(バプテスマ・五つのパンの奇跡・水上歩行・宮清め・エルサレム入城)
- 独自の記事
 - イエスとの対談(ニコデモ・サマリアの女)
 - イエスの長い説教と祈り
- 書かれた目的
 - 「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。」20:31

「福音書」によって

- イエスの言動が記録された
 - 直接の目撃者がいなくなった後もイエスについて知ることができるようになった
- イエスについて多角的に知ることができる
 - 「4つ」の福音書があることで、イエスの様々な側面や、人格を知ることができる
- パウロの神学的解説がリアルに描かれた
 - パウロはイエスの死と復活を神学的に語ったが、実際にどのようなことがあったかは知らなかった
 - 福音書によってリアルな出来事として浮かび上がった＞